



五十嵐 敏夫 議員

**問** 移住定住者が増え、就労世帯も増している。就労世帯の需要に応じて役所の休日開庁や週に1日程度の時間延長をすべきではないか。

**答** 住民構成や就労世帯が変化していることは認識しているが、実際、休日や夜間需要は少ない。さらに費用面等を鑑み、必要でないとは判断している。

**問** 町民の利便性に答えるため、開かれた役場が望ましいのではないかと。現状においても用件等を事前にお知らせいただければ、必要に応じ時間外でも対応している。

**問** 国保診療所の定期的な診療時間の延長を図り、住民に対する利便性の向上を図るべきではないか。

**答** 現在の医療体制は最低限の人員で運営を行っている。医師の研修や通勤の実態のほか、薬局の運営にも影響が及ぶことから診療時間の延長は困難である。

**問** 診療所利用率向上や週1日程度の時間延長はできないか。

**問** 就労世帯の需要に応じた役場の対応は？  
**答** 役場の休日開庁や時間延長はできない。

**答** 診療所の受診は99%予約診療だが、事前連絡があれば対応の検討をした。

**問** 役場庁舎内に総合案内所を設置し、様々な用件で来庁する住民への適切な対応をすべきではないか。

**答** 庁舎内には、業務内容を記載した案内板を設置しているが、担当課が不明の場合は入口に近い課の職員が対応をしている。



**問** 来庁した住民に対して、同じ目線での対応が必要ではないか。

**答** 職員には、来庁者にできるだけ親切丁寧に対応するよう教育しているが、町民あつての役場なので今後も研究して行きたい。



▲七ヶ宿町役場庁舎

**問** 福祉行政の充実について。  
**答** 必要な支援を図りたい。

**問** 七ヶ宿町社会福祉協議会の運営状況をどのようにみているのか。

**答** 近年の社会福祉協議会の財務状況は運営に必要な資金が十分確保されていると判断している。

**問** 住民への福祉サービス向上と新たな事業、人材確保の為、指定管理料などの増額は必要ではないか。

**答** 安定した介護サービス事業など積極的運営に



吉田 修 議員



期待しているが、設置者の町として最終的には責任を持って運営を支援したい。

**問** 加齢性難聴は認知症発症の可能性も報告されている。町の総合検診に難聴検査を加えるべきではないか。

**答** 特定健診での聴覚検査は国の検査項目にない為、住民総合検診に加えるこ

とは難しいが、新たな問診票など検診団体と協議し体制整備に取り組みたい。

**問** 町には耳鼻科がない為、検査治療は敬遠され補聴器は保険適用外のため、購入に踏み込めない方も沢山いる。補聴器購入に対する助成制度が必要でないか。

**答** 補聴器購入に対する助成制度は対象条件などを整理する必要があるが、助成が出来るよう検討したい。



**問** 高齢者や障害者の医療機関への通院支援について、町独自の新たな支援策を示すべきではないか。

**答** 通院支援については多種多様なケースや課題が想定され、一人、一人の事情、都合に合うものを制度化するのは難しいと考えている。

**問** 公立刈田総合病院の医療体制低下により他の病院を紹介されたひとり暮らしの高齢者は、肉体的、経済的負担が大きい。支援策が必要ではないか。

**答** 当面は町営バスやデマンドタクシーの利用を基本とした通院支援を研究していきたい。